

事業内容で分類		創業形態で分類	
地域資源活用	環境・リサイクル・新エネルギー	スピンオフ・独立	女性起業
新商品・新サービス開発	ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス	大学発ベンチャー	シニア起業

起業家を成功させるブランディング&デザイン Shop
「デザインはんこ」
インプレス福岡株式会社 代表取締役 石松道右さん



住所：福岡市中央区赤坂 1-11-13 101 大稲ビル4F
 電話番号：092-752-0888 設立：2000年12月
 FAX 番号：092-752-0822 資本金：7万円
 E-mail：info@design-hanko.com 従業員数：3名
 HP：<http://design-hanko.com/> 主要事業：印章の企画・製造・販売、デザイン・HP制作・印刷全般

■創業のきっかけ ～リストラにより建築不動産業界からハンコ屋へ

石松社長は社会人になって以来15年間、地元福岡で建築不動産一筋にやってこられた。一度転職したもののいずれも建築業で、営業職としてマンションなどの不動産を販売してきたが、2000年38歳の時に突然リストラに。これからどうしようと思った矢先、新卒で最初に勤めた建設会社が所有していた事務所がちょうど空室でテナント募集中であることを知り、この事務所を借りて何かやってみようと思っただけで、一念発起した。ただ、最初からはんこ屋をしようと思っていた訳ではなく、知り合いがはんこ屋という商売もあるよと勧めてくれ、また、事務所も表通りに面した1階という立地にあり、区役所や法務局も近いことから、「この場所でも出来る商売かも」との軽い気持ちで創業した。



ビルやマンションの販売といった数千万・数億が動く建築・不動産業からはんこ屋へ。こう聞くとかなりのギャップを感じるが、石松社長は、売り物がはんこに替わっただけで、逆にはんこならお客さんはどこにでもいる、チャンスはどこにでもあると前向きに考えた。創業には事務所の敷金と印鑑捌き機などの費用がかかったが、サラリーマン時代に蓄えた自己資金のみでスタート。不安は何もなかったそうだ。



当時は（2000年頃）パソコンが世の中に浸透してきた時期であり、印鑑製作は5年10年かけて技術を身につける職人技の時代から、パソコンで短期間に技術が習得できるように変わってきた転換期だったのも功を奏した。

印章の知識は何もなかったが独学で習得し、ただのはんこ屋じゃない今までにないようなはんこ屋をしたいと考え、まずデザイナーを雇った。漠然と「デザイナーだけは絶対に必要」との思いがあり、デザイナーとパソコンに

詳しい若者と3人で「印鑑から印刷まで」をキャッチフレーズに、デザイン性も取り入れたはんこ屋をスタート。3人とも印鑑の店頭販売は未経験だったが、とにかく走りながら考え、直感でやっていったという。

■事業のあらまし ～お客様の「お金がない」という言葉から始まった！

創業してからは全ての面で苦労したが、最初はお客さんの「こんなこと出来ますか？」との注文に対し「とりあえず出来る」と言い、それから考えたという。時には対応出来なかったこともあったが、注文を受けることでアイデアが生まれ、新しい商品が出来上がった。注文がなければ気がつかないこともたくさんあったという。

ある時、旅行会社から社員用の顔写真のスタンプの注文があり、100個程製作した。色の濃淡の調整が難しかったが、これもデザイナーがいたから出来たもの。今では顔写真スタンプとして、看板商品のひとつとなっている。

またある時は、男性のお客様から印鑑の円の中に☆を描いて、その中に自分の名前を彫った印鑑が欲しいとの注文があった。これをきっかけに、数年後には花を描いた印鑑も作るようになり、銀行印としても使用できる世界で一つのオリジナルはんことして人気を博している。



昔と違って、今は物を作るだけで売れる時代ではなく、付加価値がないとお金が取れないという。だから技術を追求するというよりは、デザインで話題を作りたいと考え、お店の名前も途中で「デザインはんこ」に変えた。

当時は業界に知り合いもいないし、知恵もない。分からないことだらけで、お客様の言葉が全てヒントだった。日々、試行錯誤を繰り返しながらも、以前の友人からは、数億のマンションを売っていたのによくそんな安い仕事をするなあと言われ、ついつい前職と比較してしまうこともあり、経営者としてひとつのヤマ場を迎えた時期もあった。それでも、同時期に業界の方々とは知り合いになり、素晴らしい先輩方に会ったことで、もう一度頑張ってみようと思えたという。



起業カフェ

デザインはんこ

そんなある日、起業予定の方が印鑑を買いに来られ、お話を聞いてみると、はっきりと「お金がないから、安い印鑑でいい」と言われた。今までも、「安い印鑑でいい」という言葉をしばしば聞いてきたが、「印鑑に興味がないからお金をかける必要がない」という意味が多かったという。ただその方の「お金がない」のひとつことで、起業の際に助成金という制度とうまくかみ合わせることが出来ないかなと考え、新たな取組となる「起業カフェ」を始めた。

これは、起業を目指す人や経営者を対象に「会社設立&融資」、「助成金&労務管理」、「事業計画&税務相談」などの専門分野を行政書士や社労士、税理士などに直接相談したりアドバイスを受けることが出来るカフェスタイルの個別相談会で、昨年10月より月に数回程度、事務所のスペースで開催している。出来る限り社長も同席し、コーディネーター役として双方の話をしっかり聞くそうだ。

今は税理士等の先生方には、ノーギャラで相談を受けていただいているが、話がうまくいけば顧問契約を結ぶこともあるし、この起業カフェを通じて、創業予定者から設立印他に名刺・チラシ・ロゴ・HPなどを自社で受注しやすくもなる。今は無料で相談を受けているが、ゆくゆくはビジネスの一環としてやっていけたらなという。

このように、はんこ屋が「起業カフェ」を行うのは珍しく、デザインはんこは「起業家を成功させるブランディング&デザインShop」であると社長は言う。

■今後の取組 ～起業をデザインする

2012年8月20日から、地下鉄赤坂駅2番出口近くのビル4階に移転して、新たに事業をスタートする。

石松社長は、“隠れ家的な居酒屋ならぬ、隠れ家的な印鑑屋なんていいなあ”と語る。

“知る人ぞ知るデザインはんこのお店。ここに来れば知恵が生まれ、知識が向上し、新しいアイデアが生まれるようなお店になればいいな”と夢は広がる。

社長曰く、中小企業の鉄則は専門性を持たせて、特化していくことだそうだ。起業される方に特化して、専門性を持たせてやっていく。そうすることで、必ず違う分野が見えてくると思うし、チャンスがあれば新しいことも取り入れていきたいとのこと。その取組のひとつとして、これから海外向けネット販売事業をしている方と組み、日本が大好きな世界中の顧客を対象に「sakura hanko」という名称で、漢字で当て字の印鑑をネット販売していく予定だという。海外では、趣味として印鑑を使用するなど、日本文化のひとつである印鑑はとても喜ばれる素地があり、新たな事業展開が期待されそうだ。



会社名の「インプレス」の意味は、人に感銘を与える、印象づける更には印鑑を押す、印刷するという意味もあるそうだ。「デザインはんこ」を広めて、福岡から日本、海外へと「デザインはんこ」を印象づけたいと語る石松社長は、アイデア次第でオールドビジネスをニュービジネスに変えていく、“新しいはんこ屋さん”だ。



■活用した施策

・特になし。創業当時、どんな支援があるか知らなかったなので、自分で勉強した。

■ 創業予定者に対するメッセージ

“一度決めたことは、自分自身を信じて迷わずにがむしゃらにやること！
熱心としつこさが大事！”